

平成 17 年第 2 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する 検討会 議事要旨 (案)

日時：平成 17 年 10 月 31 日 (火) 14:00 ~ 16:00

場所：中央合同庁舎 5 号館 22 階 環境省第 1 会議室

出席委員：有田芳子、岩本公宏、北野大、小出重幸、崎田裕子、佐藤洋、鈴木継美
(座長) 立川涼、遠山千春

オブザーバー：青山博昭、井口泰泉、花里孝幸、川嶋之雄

事務局：滝澤環境保健部長、上家環境安全課長、佐々木課長補佐 他

欠席委員：上路雅子、大島康行

議題：

- (1) 平成 17 年度第 1 回作用・影響評価検討会における審議内容について
- (2) 平成 17 年度第 1 回基盤的研究企画評価検討会における審議内容について
- (3) 平成 17 年度第 1 回野生生物の生物学的知見検討会における審議内容について
- (4) 平成 17 年第 1 回リスクコミュニケーション推進検討会における審議内容について
- (5) 平成 17 年度国際協力事業について
- (6) その他

議事要旨：

- (1) 平成 17 年度第 1 回作用・影響評価検討会における魚類を用いた試験結果、哺乳類を用いた試験結果、試験対象物質候補について報告・説明された。

【委員からの主な意見】

- ・平成 17 年度試験対象物質候補の選定について、ExTEND2005 でのフローチャートにおける位置付けがやや弱い、POPs 等の失効・禁止された物質の扱い(賛否両論)の意見があった。
- (2) 平成 17 年度第 1 回基盤的研究企画評価検討会での審議内容報告が行われた。
 - (3) 平成 17 年度第 1 回野生生物の生物学的知見検討会での審議内容報告が行われた。
 - (4) 平成 17 年第 1 回リスクコミュニケーション推進検討会における推進事業、ホームページ、野生生物観察事業、国際シンポジウムについて報告・説明された。
- #### 【委員からの主な意見】
- ・化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについてアクセスの容易さも含めた改良が必要、リスクコミュニケーション全般について定義・目的を改めて深く考えることが重要、一般市民への有害影響情報提供が必要等の意見があった。
- (5) 平成 17 年度国際協力事業における国際シンポジウムでの専門家向プログラム、日英共同研究、日韓共同研究、OECD 協力について報告・説明された。

以上